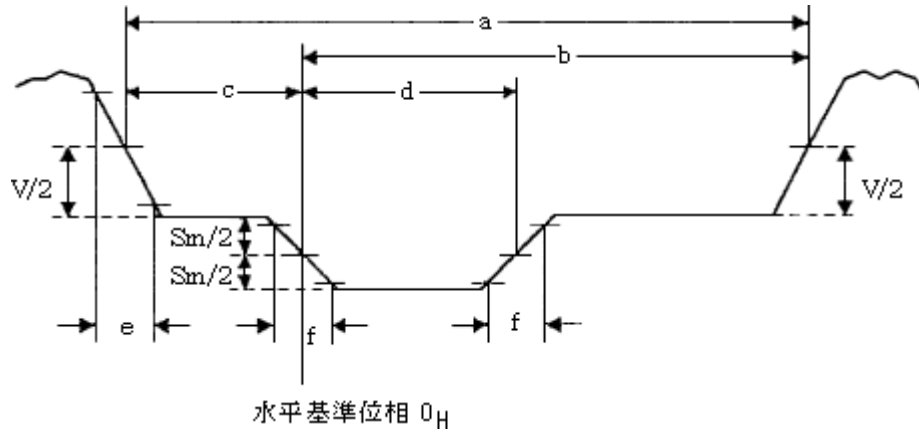


別図第四号の八の六 水平同期信号及び垂直同期信号の波形の許容範囲(第37条の27の16 第1項及び第37条の27の19第1項関係)

1 走査線数が525本であつて、走査方式が1本おき及び順次の場合の水平同期信号

(1) 水平同期信号の波形



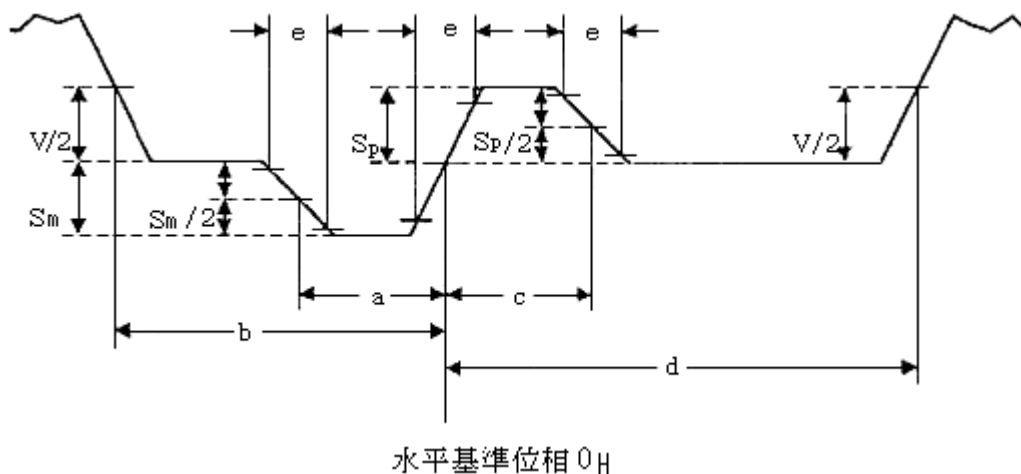
(2) 水平同期信号の許容範囲

項 目		許 容 範 囲	
記 号	走 査 線 数	525本	
	走 査 方 式	1本おき	順次
a	水平ブランキング期間( $\mu s$ )	$10.70 + 0.30$ $-0.20$	$5.35 + 0.15$ $-0.10$
b	映像信号開始点( $\mu s$ )	$9.20 + 0.20$ $-0.10$	$4.60 + 0.10$ $-0.05$
c	映像信号終了点( $\mu s$ )	$1.50 \pm 0.10$	$0.75 \pm 0.05$
d	負極性パルス幅( $\mu s$ )	$4.70 \pm 0.10$	$2.35 \pm 0.05$
e	水平ブランキング立ち下り時間(10~90%) ( $\mu s$ )	$0.14 \pm 0.02$	$0.07 \pm 0.01$
f	水平同期信号立ち下り/立ち上り時間(10~90%) ( $\mu s$ )	$0.14 \pm 0.02$	$0.07 \pm 0.01$
Sm	負極正パルス振幅(mV)	$300 \pm 7.5$	$300 \pm 7.5$

注 Vは映像信号の振幅を示し、700(mV)である。

2 走査線数が750本であつて、走査方式が順次の場合の水平同期信号

(1) 水平同期信号の波形



(2) 水平同期信号のレベルの許容範囲

記号	項目	許容範囲
Sm	負極性パルス振幅 (mV)	300±6
Sp	正極性パルス振幅 (mV)	300±6

(3) 水平同期信号の許容範囲

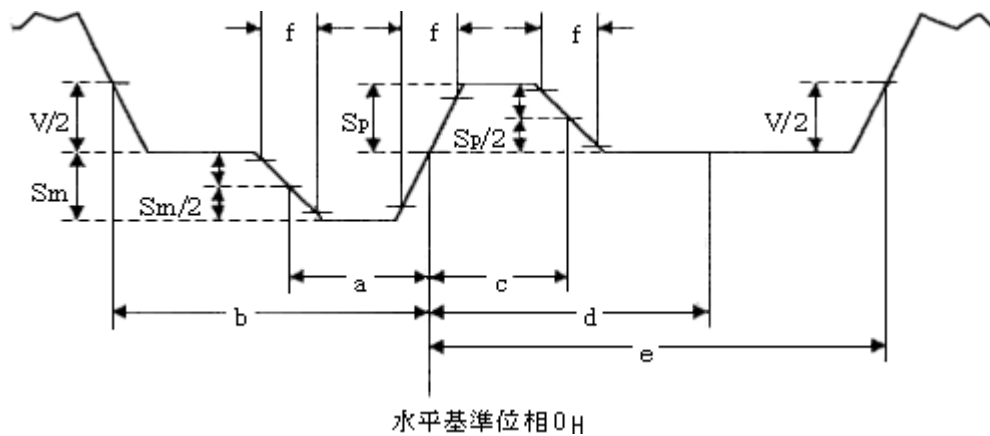
記号	項目	許容範囲
a	負極性パルス開始点 (T)	40±3
b	映像信号終了点 (T)	110-0 +6
c	正極性パルス終了点 (T)	40±3
d	映像信号開始点 (T)	260-0 +6
e	パルス立ち上がり時間/立ち下がり時間 (T)	4±1.5

注1 Tは基準クロック期間を示し、輝度信号標本化周波数の逆数である。

2 Vは映像信号の振幅を示し、700 (mV) である。

3 走査線数が1125本であつて、走査方法が1本おき及び順次の場合の水平同期信号

(1) 水平同期信号の波形



(2) 水平同期信号のレベルの許容範囲

記号	項目	許容範囲
Sm	負極性パルス振幅 (mV)	300 ± 6
Sp	正極性パルス振幅 (mV)	300 ± 6

(3) 水平同期信号の許容範囲

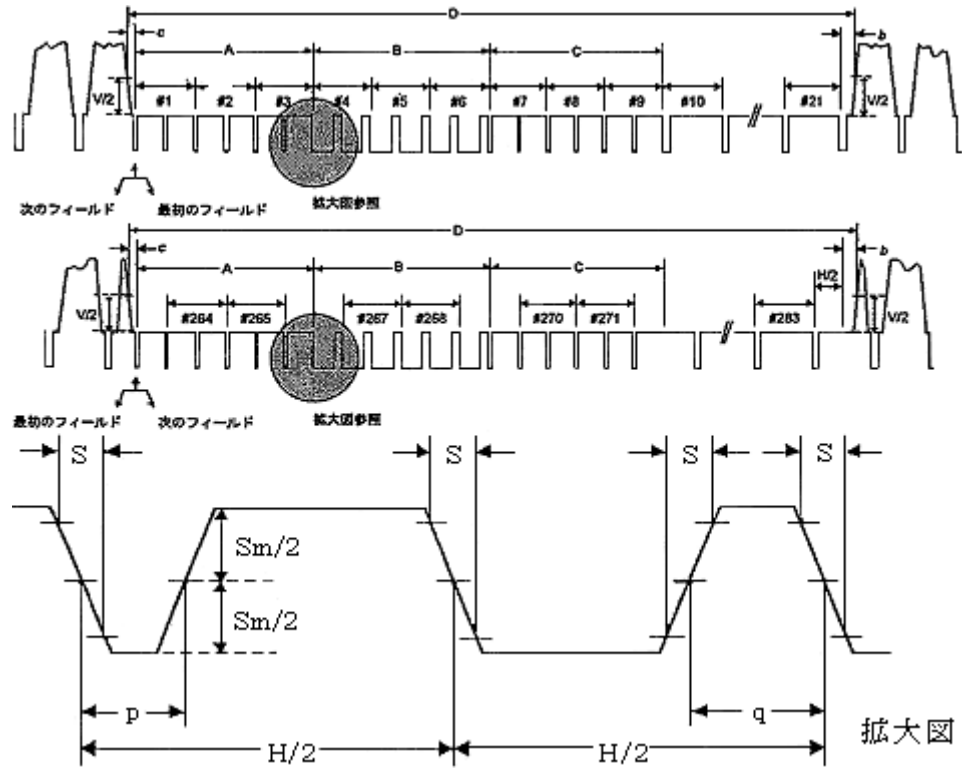
記号	項目	許容範囲
a	負極性パルス開始点 (T)	44 ± 3
b	映像信号終了点 (T)	88 - 0 + 6
c	正極性パルス終了点 (T)	44 ± 3
d	クランプ終了点 (T)	132 ± 3
e	映像信号開始点 (T)	192 - 0 + 6
f	パルス立ち上り時間 / 立ち下がり時間 (T)	4 ± 1.5

注1 Tは基準クロック期間を示し、輝度信号標本化周波数の逆数である。

2 Vは映像信号の振幅を示し、700 (mV) である。

4 走査線数が525本であつて、走査方式が1本おきの場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



(2) 垂直同期信号の許容範囲

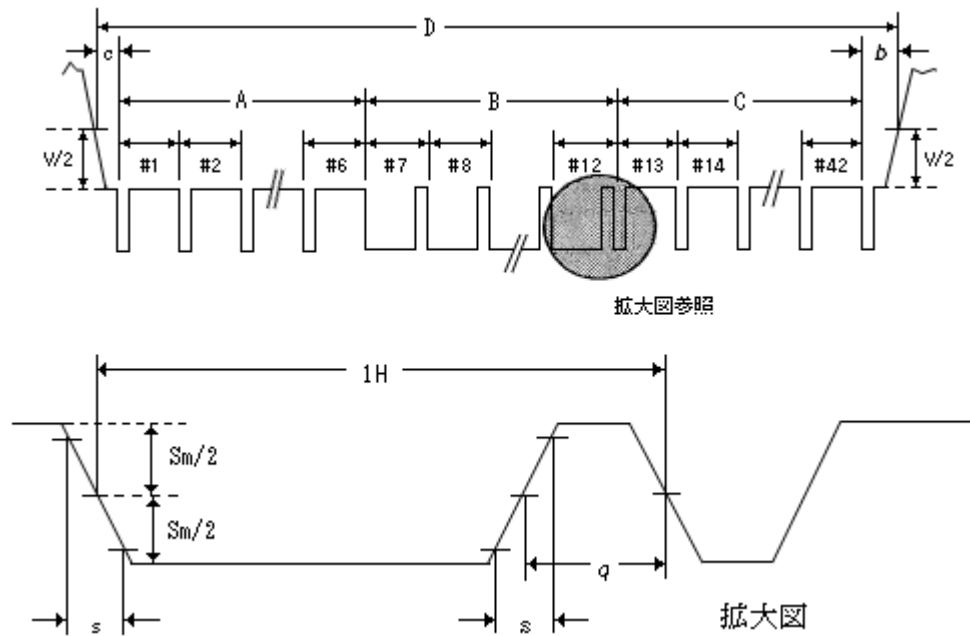
記号	項目	許容範囲
D	垂直ブランキング期間( $\mu s$ )	$21H + 10.7 + 0.30$ $-0.20$
A	等化パルス期間(H)	$3 \pm 0$
B	垂直同期パルス期間(H)	$3 \pm 0$
C	等化パルス期間(H)	$3 \pm 0$
s	垂直同期パルスの立ち上がり/立ち下がり時間(10—90%)( $\mu s$ )	$0.14 \pm 0.02$
p	等化パルス幅( $\mu s$ )	$2.30 \pm 0.10$
q	垂直セレーシヨンプルス幅( $\mu s$ )	$4.70 \pm 0.10$

注1 Hは1水平走査期間を示し、 $1001/15.75(\mu s)$ である。

2 a、b、c、 $S_m$ 及びVは、1の(2)に示す値とする。

5 走査線数が525本であつて、走査方式が順次の場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



(2) 垂直同期信号の許容範囲

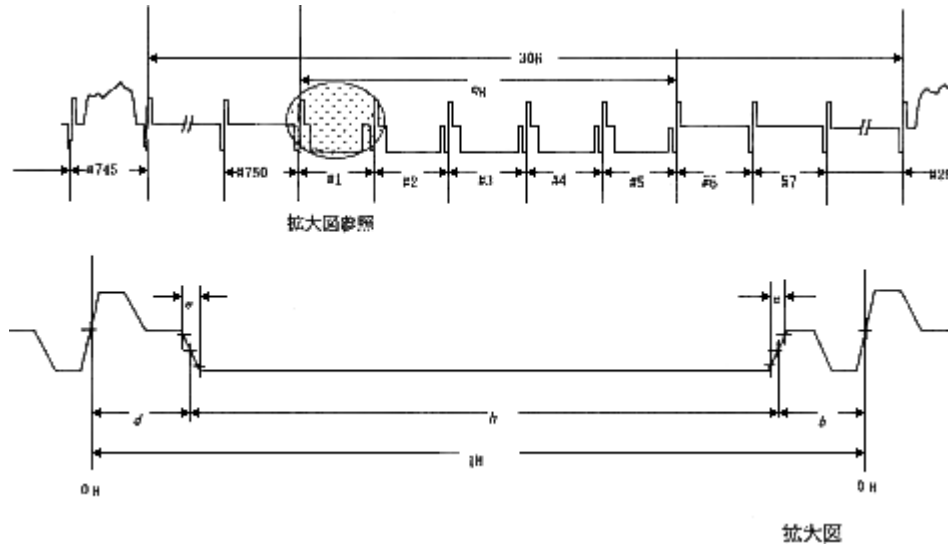
記号	項目	許容範囲
D	垂直ブランキング期間( $\mu s$ )	$42H+5.35+0.15$ $-0.10$
A	垂直ブランキング期間の開始点から垂直同期パルスの開始点(H)	$6\pm 0$
B	垂直同期パルス期間(H)	$6\pm 0$
C	垂直同期パルスの終了点から垂直ブランキング期間の終了点(H)	$30\pm 0$
s	垂直同期パルスの立ち上がり／立ち下がり時間(10—90%)( $\mu s$ )	$0.07\pm 0.01$
q	垂直セレーションパルス幅( $\mu s$ )	$2.35\pm 0.05$

注1 Hは1水平走査期間を示し、 $1001/31.5(\mu s)$ である。

2 a、b、c、 $S_m$ 及び $V$ は、1の(2)に示す値とする。

6 走査線数が750本であつて、走査方式が順次の場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



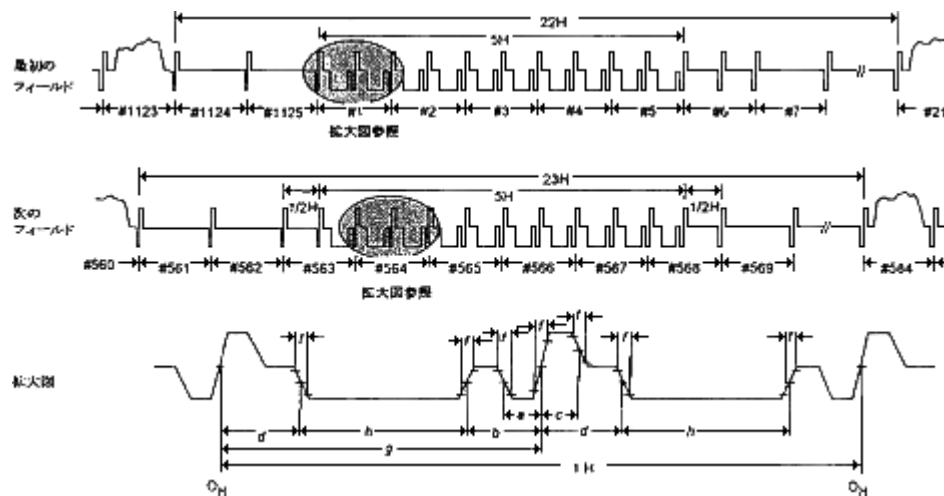
(2) 垂直同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
H	1ライン期間(T)	1650±0
h	垂直同期パルス幅(T)	1280+0 -12

注 Tは基準クロック期間を示し、輝度信号標本化周波数の逆数である。

7 走査線数が1125本であつて、走査方式が1本おきの場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



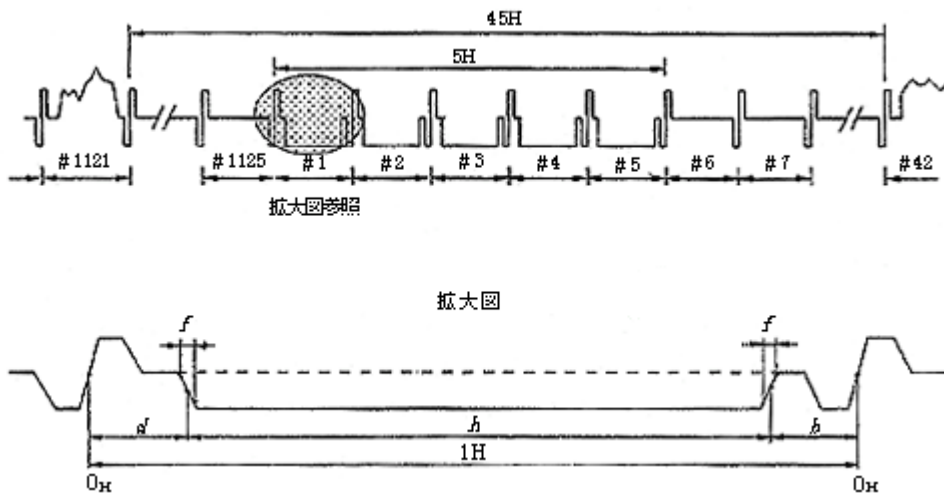
(2) 垂直同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
H	1ライン期間(T)	2200±0
g	1/2ライン期間(T)	1100±0
h	垂直同期パルス幅(T)	880±3

注 Tは基準クロック期間を示し、輝度信号標本化周波数の逆数である。

8 走査線数が 1125 本であつて、走査方式が順次の場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



(2) 垂直同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
H	1ライン期間(T)	2200±0
h	垂直同期パルス幅(T)	1980±3

注 Tは基準クロック期間を示し、輝度信号標本化周波数の逆数である。